

# News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第18号

発行 / 大阪大学医学部附属病院広報委員会 (総務課)  
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

住所 / 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15 TEL / 06-6879-5021

## 「患者の権利」を明記

### 理念・基本方針を新しく

阪大病院が診療、研究、教育を行っているくついでの基本となる「理念」「基本方針」が新しくなり、新たに「患者の権利」を明確にすることになりました。

#### 質高く安全に

阪大病院にはこれまで、診療、研究、教育を行っていくための「理念」と「基本方針」がありました。しかし、有識者からなる第三者会議でもある大阪大学医学部附属病院アドバザリー委員会から、理念や基本方針はもっと患者さまにわかりやすく、具体的にすべきだとの指摘がありました。阪大病院ではこのア

【理念】  
良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献する。

【基本方針】  
・患者本位の安心・安全な全人的医療の提供  
・高度先進医療・未来医療の開発・実践  
・社会・地域医療への貢献  
・豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

【患者の権利】  
・人の尊厳を尊重した医療を受ける権利があります。  
・安全で質の高い医療を受ける権利があります。  
・十分な説明と情報提供を受ける権利があります。  
・自由意志に基づき治療を選択する権利があります。  
・個人情報保護される権利があります。

されていませんでしたので、明記することにも、これまで以上に患者さまの権利を大切にすることが重要だと考えています。

また、大学病院の使命でもある高度な先進医療を提供することも、新しい治療法や検査法を研究開発するこ

とも大切です。さらに、地域医療機関や開業医と連携しながら、地域の中核病院として、地域医療の質の向上などに貢献していかなければなりません。

「理念」「基本方針」を決めました。「患者の権利」については、患者さまのた

「理念」「基本方針」「患者の権利」に基づき、患者さまのための医療を行うとともに、世界に通用する新しい治療法などの開発、人間味のある医療人の育成をしていきたいと考えています。

せません。ただ単に医療技術を学ぶだけでなく、患者さまの心のわかる人間味のある医療人を育成していかなければならないと思います。

患者さまの自己責任、自己選択によって、医療を受けられる権利をうたっています。また、患者さまの情報を保護するとともに、開示する権利も掲げてあります。

## カルテ持ち運びは名札を隠し



個人情報保護のため使われるカルテバック

### 5項目の個人情報保護方針

病院のカルテなどの診療記録は患者さまの非常に重要な個人情報です。阪大病院では4月1日から、個人情報保護法が施行されたのに伴い、患者さまの個人情報がかつた第三者に流出することがないように、これまで以上に厳密に管理するための規程を設けました。医師や看護師だけでなく全

職員と学生らにも厳守させ、個人情報の保護に全力を注ぎます。阪大病院ではこれまで患者さまのカルテが勝手に外部に持ち出されないように病歴管理室で、利用者に名前や利用目的などを記入させるなど厳重に管理してきました。また、電子カルテの導入に伴い、不正なアクセスやデータの破壊、改ざん

などがないようにセキュリティに万全を尽くしてきました。しかし、不十分な面もなかったとはいえず、そのために、4月1日付で、荻原俊男院長が5項目からなる「個人情報保護方針」を打ち出しました。

5項目は、個人情報収集・利用・提供の個人情報安全対策

個人情報を隠すこと、個人情報の扱いに

個人情報を活用して

個人情報に関する法令・規範の遵守、教育及び継続的改善、診療情報の開示、から構成されています。

個人情報に関する法令・規範の遵守、教育及び継続的改善、診療情報の開示、から構成されています。

個人情報に関する法令・規範の遵守、教育及び継続的改善、診療情報の開示、から構成されています。

個人情報に関する法令・規範の遵守、教育及び継続的改善、診療情報の開示、から構成されています。

個人情報に関する法令・規範の遵守、教育及び継続的改善、診療情報の開示、から構成されています。

個人情報に関する法令・規範の遵守、教育及び継続的改善、診療情報の開示、から構成されています。

個人情報に関する法令・規範の遵守、教育及び継続的改善、診療情報の開示、から構成されています。

個人情報に関する法令・規範の遵守、教育及び継続的改善、診療情報の開示、から構成されています。

個人情報に関する法令・規範の遵守、教育及び継続的改善、診療情報の開示、から構成されています。

個人情報に関する法令・規範の遵守、教育及び継続的改善、診療情報の開示、から構成されています。



ホームページの予定見やすくホームページを充実  
ホームページの役割は一層大きく、患者さまのお役に立てるようその内容を充実していき必要があります。皆さまのご感想をお寄せ下さい。  
ホームページのURLは、<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

阪大病院ホームページが「患者さまの目線で見えたホームページを目指す」をコンセプトに、今年1月、内容を充実し、リニューアルしました。リニューアルの大きな目的は、患者さまがもっとも必要とされている担当医師のスケジュールを見やすくし、どのような治療が行われているのかも素早くわかるようにした点です。また、地域の医療機関の先生方には患者さまの紹介手続きをわかりやすくしました。医療は日進月歩です。阪大病院では高度な先進医療を行うとともに、研究、開発も行っています。本院における各診療科の基本的な診療はもちろん、先端医療や特徴をホー

# 移植医療部

## コーディネーターフル活動 精神面、社会的にも支える

阪大病院は長年にわたり日本の移植医療を牽引する役割を演じてきたが、2002年に移植医療部を設立しました。当部は、一つの科の移植にとらわれず、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、泌尿器科、血液内科などに横断的に移植医療にかかわっています。当部には、3人のレシビエント移植コーディネーターが看護部から配属され、心臓移植をはじめとするあらゆる臓器移植が滞りなく行われるように調整し、レシビエント（移植患者）と生体ドナー（臓器提供者）を医療面だけでなく、精神的、社会的にもサポートしています。



肺移植の患者さまに主治医とともに術後ケアにあたる移植コーディネーター（左）

臓器移植法施行後の日本における脳死の方からの臓器移植は、1999年2月に阪大病

院で行われた心臓移植が始まりました。その後、全国で計27例の心臓移植が行われていますが

そのうち9例が阪大病院で行われました。また、阪大病院の特長は、法的に認められているすべての臓器の移植が行える全国唯一の施設で、脳死心、肺、膵臓移植及び生体肺移植がすでに高度先進医療として認可されています。これまでの実績は、脳死者からの移植として肺5例、膵臓7例、腎臓5例、肝臓1例で生体移植としては肺6例、膵臓1例、肝臓70例以上で、腎臓は数百例行われています。これらの移植が行われる際に、レシビエント

と生体ドナー並びにそのご家族、担当医、病棟看護師、手術部、集中治療部、臨床検査部、病理部や事務担当者らと連絡調整にあたっているのが、移植医療部の一つの仕事です。特に脳死の方からの移植の際には連携を密にしなければ移植が順調に行われませんので、重要な役割を果たします。移植は手術自体が注目されがちですが、レシビエント、生体ドナーやそのご家族の心の支えともなる移植コーディネーターは、移植医療部のもっとも大切な役割といえます。

現在、3人の移植コーディネーターがいます。レシビエントの精神的、社会的ケアだけでなく、移植を当院または他院で待っており患者さまの悩みをお伺いしたり、ご家族の不安を解消したりするのも仕事です。また、生体移

植の際にはドナーの方の精神的、社会的なケアを行うことも重要な仕事です。移植コーディネーターは阪大病院に入院中の患者さまだけでなく、阪大病院や海外で移植を受けている患者さまに入院している患者さま、他院にて移植を

待つておられる患者さまの対応もしています。そのような患者さまを全部合わせると、約300人いらっしゃいます。患者さま同士の交流を助けるのも移植コーディネーターが行っています。移植前後の不安などを患者さま同士で

話し合うことで、移植に対する理解も深まっています。移植コーディネーターは、患者さまやご家族は大変な思いで移植を待ち、待たれますので、その方々を長期にわたってサポートしたいと思っています。

た。それぞれの部屋のベッドには脈拍や血圧などを常時監視できるモニターがついていて、そして、緊急時には医師がいつでも駆けつけることのできる体制を組んでいます。

心筋梗塞など循環器病の治療は時間との勝負です。1秒でも早い対応が生死を分けることとなります。心臓外科、内科が協力して全力を尽くしていただきます。

**受動喫煙の防止について**  
阪大病院では昨年10月から館内全面禁煙を実施しました。本年4月から全学の取り組みとして、大阪大学受動喫煙防止指針を定め、加えて本年中に受審する病院機能評価項目の要件から、建物に続くベランダ・屋上・非常階段・渡り廊下・建物出入り口付近について4月16日から禁煙としましたので、ご協力いただきますようお願いいたします。また、禁煙サポートとして禁煙外来が4月から隔週月曜日にスタートします。なお、喫煙される方はホスピタルパークでお願いします。

## 心臓血管病ケア・センター CVC本格稼働



CVCU（心臓疾患ケアユニット）

### より迅速・的確に対応

心臓血管外科と循環器内科の専門医が協調しながら重症の心臓病患者さまを治療、ケアするセンター「CVC」(Cardiovascular Care Center = 心臓血管病ケア・センター)

CVCは心臓病の手術後や、人工補助心臓を付けて心臓移植や肺移植を待つておられ

る重症の患者さまや緊急の治療を必要とする重症の心筋梗塞などの患者さまを、心臓内科医と外科医が共同して集学的な治療をし、急性期のケアも行うセンターです。これまでは、集中治療室や救命救急センター、心臓血管外科病棟で対応していました。しかし、移植を待つて人工補助心臓をつけた患者さまが増え、重症の患者さまの治療ケースも多くなってきたために、より総合的で高度な治療、ケアを行うために設置しました。CVCは西9階病棟にあり、これまでの4人部屋2室を個室4室にリフォームし

た。その条件として、専門医の資格を持つ麻酔科医のもとで研修を行うことが義務付けられています。阪大病院でも昨年、3人の救命士を受け入れられました。研修は一定の資格を得た救命士が対象になっています。病院での研修は全身麻酔で手術を行う患者さまへの気管挿管を、麻酔科専門医の指導のもとで、実際に手術室で行います。患者さまへはあらかじめ、麻酔科医と気管挿管を行うことがで

きるようになります。昨年、研修を受けた3

救命士が、研修の意義を説明し、同意を得ています。研修は大阪府救急業務高度化推進連絡協議会が定めたガイドラインに沿って行われ、気管挿管にもなる合併症が起こらないように、専門医が万全を期しております。救命士は30例の気管挿管を行うことができれば、救急現場で医師の指示のもとで気管挿管を行うことができるとなります。

人は全員、現場での気管挿管を行えるようになります。すでに、実際に気管挿管を行い、仮死状態から救命しているケースもあります。仮死状態の人への気管挿管により救命率が向上するとされています。阪大病院では、今後も救命士への気管挿管研修を行っていただきますので、患者さまはその趣旨を理解いただき、ご協力くださるようお願いいたします。



麻酔科での気管挿管

麻酔科での気管挿管

麻酔科での気管挿管

## 病院フォーラムを開催

阪大病院は、2001年1月に財団法人病院評価機構が定める認定基準に達しているとして認定書の交付を受けました。今年10月中旬に更新時期を迎え受審する予定ですが、新しい病院評価基準となるために、評価基準に詳しいベルランド総合病院理事の工藤邦昭氏を講師に迎え、「医療の質向上をめざして」と題し、病院フォーラムを開きました。

講演では、評価判定指針を出来るだけ多くの職員が読む 各項目に対し担当部署、責任者を定める 改善目標達成度の評価と今後の活動計画を立てる、などの取り組みが必要であるとの説明がありました。

## 病院経営で海外調査実施

阪大病院は法人化されたことにより、従来にも増して、質が高く安全な医療を維持しつつ、経営の合理化を図らなければならなくなりました。今回、海外の病院経営を参考にするため、米国とシンガポールの病院に本院職員らが調査に行きました。

米国では世界的に知られているスタンフォード大学病院と米国の病院ランキング5位のカリフォルニア大学サンフランシスコ校メディカル・センターを調査しました。両病院とも、地域医療への貢献はもちろん、得意とする診療部門や先端研究を全世界的にわかりやすく発信しており、米国内だけでなく、国外からの患者についても積極的に受け入れていました。

シンガポールでは、アレキサンドラ・ホスピタル、ナショナル・ユニバーシティ・ホスピタルとチャンギ・ゼネラル・ホスピタルを調査しました。一つの病院では一流ホテルのサービスを目指す患者満足の向上と効率の経営を図るため、バランス・スコアカードという技法を取り入れ、事務職員と医療職員が協調して経営に参加していたことが印象的でした。また、同国の病院はコンピューターネットワークを使って、患者さまの氏名、生年月日、アレルギー等の情報を共有していました。

## 臨床研修指導医養成講習

平成16年度第2回目の指導医養成講習会が2月5、6日の2日間、千里阪急ホテルで開催されました。チーフタスクフォースに今回から新たに日本赤十字武蔵野短期大学の畑尾正彦教授と第1回講習会でもお世話になった昭和大学横浜市北部病院副院長の中島宏昭教授、また、タスクフォースに学内から卒業臨床研修センターの種村匡弘助手他3人の計4人を加えて実施しました。

参加者は阪大病院からは15人、協力型病院から17人の計32人でした。熱心に討議・演習が行われ、研修医の指導と指導医のスキルアップの手ごたえを感じた講習会となり、全員に厚生労働省の「修了証書」が病院長から一人一人に手渡されました。

## パソコン端末を設置

インターネットによる情報収集やメールをする患者さまのために、阪大病院内で食堂や売店などを経営する財団法人「恵済団」が、パソコン端末を病棟各階のデイルームと外来棟2、3階の公衆電話コーナーに各2台ずつ設置しました。利用するには設置場所近くにあるプリペイドカード発行機でカードを購入してください。利用料金は、病棟は100円で20分、外来は15分となっています。

## 外来診療科の場所変更

2月7日から放射線科外来が1階L階(地下)、4月1日から神経内科・脳卒中科が内科東 内科西 呼吸器内科が内科西 内科東、となりました。

## 生花の持ち込みでお願い

次の病棟では、治療上の理由から生花の持ち込みをご遠慮していただいております。

東4階 特別共通病棟▽東5階▽東6階▽東10階

ホスピタルミニニュース